

NewsLetter

自治医科大学地域医療オープン・ラボ

Vol.145,May,2019



地域医療オープン・ラボ NEWS LETTER CRST メンバーリレーエッセイ No.8

“オープンアクセスジャーナル”って知っていますか？

分子病態治療研究センター 炎症・免疫研究部 高橋将文（宮城県12期卒業）

前回のエッセイを書かれた安食先生とは、旧臓器置換研究部（小林英司先生）で一緒に研究をしていた仲間です。この度、このリレーエッセイのバトンを渡していただきましたので、研究に関連した最近の雑感を書かせていただきます。

私も以前は自治医大の卒業生として地域医療に従事していたのですが、ひょんなことから研究の面白さに嵌まってしまい、2009年に本学に戻って来てからは全く患者さんを診ずに研究を中心に仕事をしています（例外は東日本大震災の医療支援だけ）。私の研究は、主に細胞や動物を用いて病気のメカニズムを解明し、それを利用した新しい治療法を開発することを目的とした、いわゆる「基礎医学研究」ですが、このような研究の一般的な



流れとしては、① 仮説を立てる、② それに基づいた実験計画を作る、③ 実験を行う、④ 仮説が検証できたら英語で論文化して雑誌（いわゆるジャーナル）に投稿する、というものです。自らの研究を論文化するという事は、研究成果を広く社会に還元するという意味だけではなく、病気のモデルとして用いた実験動物の死を無駄にしないため、またキャリアアップや研究費を獲得して研究を続けていくためにも、研究者にとって最も重要な仕事の一つです。また、博士課程の大学院生にとっても、学位（医学博士）を取るためには論文が必要ですので、“やった実験は必ず論文化しよう！”とラボのメンバーにはいつも伝えています。

ところがここ数年、出勤してメールを開くと、論文を投稿してくださいとか、雑誌の編集委員になってくださいといった出版社からの依頼メールがほぼ毎日のように、それも何通も届くようになってきました。インターネットの普及によって紙ベースで論文を印刷する必要がなくなったため、簡単に出版社を創ることができるようになり、昔から星の数ほどあると言われていたジャーナルが、現在では本当に数えきれないほど創られています。なかでも、どんどん増えているのがインターネット上で誰もが無料で全ての論文を読むことができるという“オープンアクセスジャーナル（OAJ）”です。

これまでの出版社は読者に雑誌を購入してもらって運営していた訳ですが、OAJでは論文執筆者から Article Processing Charge（APC）と呼ばれる論文掲載料を徴収して運営されています。研究者から観てOAJの良いところは、研究成果の周知という意味で非常に魅力的ですし、掲載までの時間も短く、カラー写真も制限なし、比較的論文が採択されやすい（面倒な追加実験を要求されることが少ない）などがあり、実際、OAJで発表した方が被引用数（他の論文に何回引用されたか、つまり研究成果のインパクトを示す）も倍以上あったとする報告もあります。ただ、OAJでは結構なAPC料を要求されるという問題があります。例えば、メジャーなOAJであるNature Communicationsや Cell Reportsでは、APC料が約60万円、より採択されやすいScientific Reportsでは約18万円です。もう一つの問題は、新しいOAJがどんどん創

刊されて論文数も増加していることから、そのOAJのレベル（つまり雑誌のインパクト）が変動しやすく、落ちやすいという印象もあります。実際、Scientific Reportsでも、その雑誌のレベルを評価する指標として知られているインパクトファクター（IF）が年々低下しています。

OAJを経営面から考えると、論文数を増やして収入を得るために査読という論文の審査を緩くして採択されやすくする、つまり論文の科学的な質が十分に担保されない可能性が指摘されていました。他の世界と同様、研究の世界も益々厳しくなってきた、雇用ポジションや研究費を得るため、あるいは学位を取るためにも期限内にある程度の論文を出さなければならない状況になっていますので、APCを払えば論文を簡単に掲載してくれるOAJは有用とも言えます。しかし、このようなOAJの論文は信用されず、逆に研究者の信用を貶めますし、OAJそのものが知らないうちに廃刊していたということもあるようです。実際、論文の質はどうしても良く、APC徴収で利益を得ることが目的の“ハゲタカ出版社 (Predatory Publishers)”と呼ばれる会社がたくさん乱立されています。このような会社の中には、これまで出版とは無関係な会社も数多くあるようですし、Beall's Listと呼ばれるブラック出版社のリストもありました（2017年に閉鎖されたが、現在でもネット上にコピーあり）。また、2013年Science誌の論文では、明らかな間違いを随所に入れて文章も自動翻訳サービスで作製したデタラメ論文をOAJの304誌に投稿したところ、なんと157誌で採択されたとの興味深い研究（？）も紹介されています。このようなことから、最近、国内の多くの大学においてハゲタカ出版への注意を促すお知らせが盛んになされていますので、自治医大でも今後、注意喚起を行っていく必要があるのではないかと思います。

今回、かなりマニアックな話題を紹介しましたが、私たちの研究の世界も単に一生懸命研究をやって論文を書くという作業だけでは済まなくなっているという現状を紹介させていただきました。

（2016年から不定期にCRST*メンバーによるリレーエッセイをNewsLetterとしてお届けしています。次回の執筆者は、自治医科大学 環境予防医学 市原佐和子先生の予定です。）

*CRSTは、本学卒業医師の地域医療に根ざした研究や論文を支援するために、2010年7月に発足した「地域医療研究支援チーム」です。現在、181名の有志教員にご参加いただき、各専門分野における研究テーマのブラッシュアップに加え、一般的な論文作成支援にご協力いただいております。2013年4月に発足した「臨床研究支援センター」活動の一翼を担う組織として位置付けられています。CRSTに参加し、研究支援活動を行っていただける方をひろく募集いたします。チームの活動は、主にメーリングリスト上での情報共有とディスカッションであり、会合等による時間制約はありません。チームメンバーの専門領域についてのご意見とご指導をお願いすることになります。参加登録や本企画へのご意見は、地域医療オープン・ラボ（内線2338、openlabo@jichi.ac.jp）へご連絡下さい。

CRSTホームページ <http://www.jichi.ac.jp/dscm/CRST.html>

地域医療オープン・ラボNews Letter原稿募集

地域医療オープン・ラボでは、自治医大の教員や卒業生の研究活動を学内外へ発信するために、「自治医科大学地域医療オープン・ラボNews Letter」を定期的に発行しています。

<http://www.jichi.ac.jp/openlab/newsletter/newsletter.html>

- ★ 自治医大の教員や卒業生の研究活動をご紹介ください
- ★ 自薦・他薦を問いません
- ★ 連絡先：地域医療オープン・ラボ openlabo@jichi.ac.jp

[発行]自治医科大学大学院医学研究科
地域医療オープンラボ運営委員会
事務局 大学事務部学事課 〒329-0498 栃木県下野市薬師寺 3311-1
TEL 0285-58-7477/FAX 0285-44-3625/e-mail openlabo@jichi.ac.jp
<https://grad.jichi.ac.jp/>